

描写二次叙述詞と stage-level 叙述詞の関係について

吉 川 洋

Semantic Relationship between Depictive Secondary Predicates and Stage-level Predicates

Abstract: There are three kinds of secondary predicates; resultative secondary predicates, conditional secondary predicates and depictive secondary predicates. It is generally said that while resultative secondary predicates are restricted by the matrix (or main) verbs, depictive secondary predicates are not restricted and appear freely in any sentence. But that is not the case. Depictive secondary predicates do not necessarily co-occur with any kind of verb. In the sentences with secondary predicates (adjunct-predicate constructions), stative verbs, for example *be dead*, never appear as matrix verb; **John was dead happy*. Moreover, any kind of adjective does not appear as depictive secondary predicate; **John ate the chickens_i large_i*. There are some semantic conditions or some semantic restrictions under which adjunct-predicate constructions are accepted. In this paper, the conditions will be shown in terms of the semantic linking between matrix verb and secondary predicate.

序

付加詞 (adjunct phrase) は、項 (argument) と異なり、主動詞 (matrix verb) によって選択されるものでないため、主動詞の補語ではない。そのために、付加詞には一見主動詞による選択制限がないように思われる。しかし、付加叙述詞である描写二次叙述詞 (depictive secondary predicate) が、他動詞文に付加される場合、次の(1)~(3)が示すように、どのような叙述形容詞でも描写二次叙述詞として容認されるという訳でない。(Rapoport (1991, 1993), Dowty (1972) 参照。)

- (1)a. John ate the chickens_i raw_i.
b. *John ate the chickens_i large_i.
- (2)a. Eli bought the glass_i new_i.
b. *Eli bought the glass_i green_i.
(Rapoport (1993:171))
- (3)a. I met John_i drunk_i / naked_i.
b. *I met John_i intelligent_i / tall_i.

また、付加叙述詞を持つ構文(付加叙述詞構文 (adjunct-predicate construction) と呼ばれる構文で、以下付加詞構文と略す。)の主動詞は、次の(4)~(6)が示すように、どのよ

うな動詞であっても、その構文が成立するという訳ではない。

(4)a. *Noa owns chickens_i young_i.

b. Noa cooks chickens_i young_i.

(Rapoport (1991:159))

(5)a. *Noa_i knew the answers drunk_i.

b. Noa_i wrote the answers drunk_i.

(Rapoport (1991:169))

(6)a. *John_i is dead happy_i.

b. John_i died happy_i.

(1)～(6)で示されるように、付加叙述詞である描写二次叙述詞は、叙述形容詞であればいかなる叙述形容詞であっても容認される訳でない。また、付加詞構文の主動詞も、いかなる動詞であっても付加詞構文として成立する訳でない。それでは、どのような叙述形容詞が描写二次叙述詞として容認され、どのような主動詞が付加詞構文で成立するのか。また、どのような条件の下で、付加詞構文は容認され、付加詞構文は、どのような特徴を持つ構文であるのか。これらの問題について、本稿で考えてみる。

その他に、描写二次叙述詞の特徴として、結果二次叙述詞と大きな違いが叙述される状況で見られる。二次叙述詞と関係づけられる NP は、ホスト NP と呼ばれ、その NP が表す対象物の最終状態を結果二次叙述詞は表し、描写二次叙述詞は主動詞で表される行為・出来事の始発時でのホスト NP の状況・状態を表している (Rapoport(1991:161), Dowty (1972, foot-note 1))。

(7)a. John painted the house_i white_i.

(結果二次叙述詞)

b. After John finished painting the house, it was white.

(8)a. John ate the meat_i raw_i.

(描写二次叙述詞)

b. John ate the meat and at the time that he ate the meat, it was raw.

Rapoport(1991)や Dowty (1972)が示しているように、(8a)の叙述が(8b)のようにパラフレーズされると、描写二次叙述詞は主動詞で描写される出来事の始発時及び、出来事の展開中でのホスト NP の状況・状態を表していると言える。従って、ここでは描写二次叙述詞は、次のように特徴づけられる状況・状態を表していると考えられる。この考えについては、II.2.及び II.3 節でもう少し詳しく検証する。

(9) 描写二次叙述詞の働き： 主動詞で描写される行為・出来事の始発時及び、展開中でのホスト NP の状況・状態を表す叙述詞。

本稿では、(9)で示した描写二次叙述詞の働きを考慮し、次の 4 つの問題に取り組むことにする。

問題提起：(i) どのような特性を持つ叙述詞が、描写二次叙述詞として容認されるか。

(ii) どのような特性を持つ動詞が、付加詞構文の主動詞(句)になりえるか。

(iii) 付加詞構文が成立するための条件とは、如何なる条件か。(iv) 付加詞構文は、ある特徴を持つ構文であるとすれば、その特徴とはどのようなものか。

I. 描写二次叙述詞の特徴

(1)～(6)で見たように、どのような叙述形容詞でも付加詞構文の描写二次叙述詞として容認される訳でなく、どのような動詞でも付加詞構文の主動詞として成立する訳でもない。言い換えると、付加詞構文は、その主動詞(句)と付加叙述詞に対して、ある特別な制約・条件が課せられると考えられる。すなわち、付加詞構文として成立するためには、描写二次叙述詞と主動詞(句)との間に、ある一定の制約・条件が意味論的にあると考える。その制約・条件とは、どのようなものであるかを考え、付加詞構文が持つ特徴を明らかにするのが、本稿での目的である。まず、描写二次叙述詞として容認される叙述詞は、どのような叙述詞であるかを見てみよう。

I.1 付加詞構文で容認される叙述詞

(1b)(2b)(3b)で見たように、描写二次叙述詞は、どのような叙述形容詞でも容認可能な訳でない。それでは、付加詞構文で容認される叙述詞は、どのような叙述詞であるかを具体的に見てみよう。

- (10)a. Roni bought the dog_i sick_i.
 b. *Roni bought the dog_i intelligent_i.
 (11)a. Roni cut the bread_i wet_i.
 b. *Roni cut the bread_i white_i.
 (12)a. Ayala sold the book_i used_i.
 b. *Ayala sold the book_i interesting_i.
 (13)a. Mixa broke the glass_i new_i.
 b. *Mixa broke the glass_i blue_i.
 (Rapopor(1991:168))
 (14)(= (1))a. John ate the chickens_i

raw_i.

b. *John ate the chickens_i large_i.

(15)(= (2)) a. Eli bought the glass_i new_i.

b. *Eli bought the glass_i green_i.

(Rapoport (1993:171))

(10)～(15)で見られるように、描写二次叙述詞として容認される叙述形容詞と、容認されない叙述形容詞は、次のように分けられる。

- (16)a. 描写二次叙述詞として容認される形容詞 : raw, new, sick, wet, used
 b. 描写二次叙述詞として容認されない形容詞 : large, green, intelligent, white, blue

描写二次叙述詞として容認される形容詞とそうでない形容詞の間には、どのような意味の違いがあるかを、次に見てみよう。まず、描写二次叙述詞として容認される叙述形容詞の特徴から見てみることにする。

I.2 描写二次叙述詞の意味特性

付加詞構文では、どのような特徴を持つ叙述形容詞が容認され、どのような特徴を持つ叙述詞が容認されないか。この容認性を分ける意味特性とは、どのような特性であるかを見てみよう。

容認される叙述形容詞 raw, wet, sick が、ホスト NP に対してどのような状況描写をしているかを見てみると、ホスト NP の対象物に一時的な特性(temporary property)を与えていることが分かる。すなわち、この特性を持つ叙述形容詞は、一時的な状況で成立し、変化する可能を持つ(可変

的)stage-level の 叙 述 詞 で あ る
(Carlson(1980))。

- (17) stage-level 叙述詞 : raw, wet,
sick, drunk
(一時的な状況で成立する叙述詞)

他方、描写二次叙述詞として容認されない intelligent, large, white のような形容詞は、ホスト NP の対象物が持つ固有の特性を表す。このような特性を持つ形容詞は、individual-level の 叙 述 形 容 詞 で あ る (Carlson(1980))。ある対象が持つ固有の特性は、永続的な状況で成立するため、変化することがない。

- (18) individual-level 叙述詞 : large,
intelligent, white, stupid
(永続的な状況で成立する叙述詞)

以上のことより、付加詞構文が成立するための必要な条件は、描写二次叙述詞が stage-level 叙述詞でなくてはならないことになる。

- (19) 付加詞構文の条件 : 描写二次叙述詞は stage-level 叙述詞である。

次に描写二次叙述詞は、なぜ stage-level でなくてはならない理由を考えてみよう。

II. 描写二次叙述詞と主動詞の意味関係

主動詞が表す事柄とホスト NP プラス描写二次叙述詞の表す事柄 (すなわち、ホスト NP が、表す状況・状態) の関係は、どのように関連づけられているかを検討して

みる。

II.1 付加詞構文の主動詞の特徴

この問題の解決を図るために、付加詞構文における主動詞の特徴をまず見てみることにする。

付加詞構文の主動詞は、どのような特徴を持つ動詞であるかを見てみると、動詞であればいかなる動詞でも、付加詞構文として成立する訳ではないことが分かる。

- (20)(= (4))a. *Noa owns chickens_i
young_i.
b. Noa cooks chickens_i young_i.
(21)(= (5))a. *Noa_i knew the answers
drunk_i.
b. Noa_i wrote the answers drunk_i.
(Rapoport(1991:169))
(22)(= (6))a. *John_i is dead happy_i.
b. John_i died happy_i.

(20b)(21b)(22b)は付加詞構文として成立し、(20a)(21a)(22a)は成立しない。付加詞構文で容認される主動詞と容認されない主動詞には、どのような違いが見られるのであろうか。実際、両者には大きな違いが見られる。容認可能な動詞(句)cooks chickens, wrote the answer, died は、dynamic 動詞で、その動詞句が表す事柄は出来事である。

一方、容認不可能な動詞(句)own chickens, knew the answer, is dead は、stative 動詞で、その動詞句が表す事柄は状態である。

- (23)a. dynamic 動詞 : die, write, cook
b. stative 動詞 : be dead, own, know

このように、付加詞構文での主動詞句は、dynamic 動詞句で出来事を表している。以上のことより、次のような条件が付加詞構文成立に必要となる。

- (24) 付加詞構文成立条件：主動詞は dynamic 動詞で、出来事を表す動詞に限られる。

dynamic 動詞で表される出来事と stative 動詞で表される状態を、時間及び空間で表される状況に基づいて特徴づけると、次のようになる。(Chierchia (1995), Kratzer (1995) 参照。)

- (25)a. (dynamic 動詞で表される事柄)出来事：限定された時間及び空間で成立する一つの状況。
b. (stative 動詞で表される事柄)状態：任意の時間及び空間で成立する状況。

dynamic 動詞で表される出来事は、一時的かつ一空間的に限定された状況で成立しているために、stage-level 叙述詞で表される事柄である。他方、stative 動詞で表される状態は、任意的な時・空間で成立するために、individual-level 叙述詞で表される事柄と言える。従って、付加詞構文の主動詞について、次のことが成立する。

- (26) 付加詞構文の主動詞は、stage-level である。

II.2 描写二次叙述詞と主動詞(句)の時間関係

次に、付加詞構文が成立するためには、描写二次叙述詞が stage-level でなくてはならない理由を考えてみよう。付加詞構文は無条件に成立する訳でなく、成立するためには、付加叙述詞と主動詞の間に何らかの条件があると考えられる。その条件が、付加詞構文の成立条件である。その条件とは、いかなるものかを考えるにおいて、描写二次叙述詞と主動詞との間には、どのような時間的な関係が成り立っているのかを見てみよう。

II.2.1 描写二次叙述詞の表す状況・状態と主動詞の表す出来事の時間関係

描写二次叙述詞の表す状況・状態と、主動詞の表す出来事との間にはどのような関係が時間的に成立しているかを考えてみよう。この問題を解決するためには、描写二次叙述詞で表されるホスト NP の状況と主動詞が表す出来事の間で成立する関係を、明らかにすることから始める。このことを明らかにすることにより、付加詞構文での描写二次叙述詞が、なぜ stage-level であるべきかが、解明されと考える。

次の(27a)は、容認不可能な文である(Rapoport (1991: 164))。なぜ、この文が容認不可能なのか、その理由を明らかにすることにより、付加詞構文の描写二次叙述詞が、なぜ stage-level でなくてはならないかが理解されよう。

- (27)a. *I ate the meat_i raw_i, after frying it up.

(Rapoport (1991: 164))

b. I ate the meat, after frying it up.

付加詞構文である(27a)が容認不可能な理由を、容認可能な(27b)と比較しながら考えてみよう。(27b)では、油で揚げる行為が先に起こり、その後に食べる行為が来る事を表している。そのために、「私がその肉を食べた時(when I ate the meat)、その肉は生でなく油で揚げた肉であった。」という事態が、(27a)で述べられていることになる。

(27a)では、なぜ容認(もしくは、解釈)不可能であるかを考えてみよう。その理由は、主節と従属節の間での表される状況で矛盾が生じ、解釈不可能となると考えられる。すなわち、私(I)が肉を食べた(ate the meat)時、その肉は揚げられており、生(raw)でなくなっていなければならない。しかし、主節(I ate the meat raw.)は、そのような状況を表していない。先行行為を表す(after frying it up)は、その肉を油で揚げ(frying it up)、肉は生でなくなっている状況を表しているが、主節が表す状況は、肉は生であることを表している。先行行為を表す従属節における肉の状態と、後続行為を表す主節における肉の状態が一致していないために、矛盾が生じ、解釈不可能となっている。このことは、付加詞構文の描写二次叙述詞は、主動詞の表す出来事と同一時間帯でのホスト NP の状況・状態を表し、その出来事と時間的に完全にリンクされていることを物語っている。従って、一つの付加詞構文が容認されるためには、付加詞と主動詞との間で時間的に完全にリンクされていなければならない。このリンク付けが、付加詞構文を成立させる条件であり、(9)で述べた描写二次叙述詞についての働

きを表すものである。

(28) 付加詞構文成立条件 II: 主動詞の表す出来事と付加叙述詞で表される状況が、時間的に完全にリンクされねばならない。

II.3 付加詞構文の時間的リンク付け

時間的リンク付けとは、どのような事かをもう少し詳しく見てみよう。すなわち、付加詞構文成立のための時間的リンク付けとは、どのような事を意味するのかを見てみよう。

主動詞が stage-level 叙述詞である時、その動詞が表す状況描写が成立するのは、一時的・一空間的な場合に限定されている。付加詞が、この一時的・一空間的状況描写と時間的に関連づけられるには、付加詞自体もまた時間的に限定された状況を表す叙述詞でなくては、時間的リンク付けがなされないことになる。すなわち、描写二次叙述詞もまた、一時的・一空間的状況描写でなければ、主動詞で表される出来事と時間的に完全にリンクされないことになる。この理由により、任意の状況で成立する individual-level の形容叙述詞は、描写の二次叙述詞として容認されないことになる。

(29)a. *John ate the meat_i large_i.

b. *John cut the bread_i white_i.

c. *John sold the book_i interesting_i.

以上の理由で、主動詞で表される一つの時間的・空間的に限定された出来事にリンクされる付加叙述詞もまた、時間的・空間的にも限定された状況・状態を表す叙述詞

でなければならない。この時間的リンク付けによって、付加詞構文における描写二次叙述詞が容認される。このリンク付けが、付加詞構文の成立条件であり、この条件に合致する叙述詞が、描写二次叙述詞の資格を持つ。その叙述詞は、stage-level の叙述詞である。

- (30) 付加詞構文成立条件 III : 描写二次叙述詞の表す描写状況・状態は、主動詞(句)で描写される出来事に時間的にリンクされねばならない。すなわち、主動詞が表す出来事と、描写二次叙述詞が表す状況とは、限られた時間帯でかつ、同一時間帯で成立しなければならない。

項は主動詞とリンクされるように、付加叙述詞もまた主動詞の描写する出来事と時間的にリンクされねばならない。項は統語的に主動詞とリンクされ、付加詞である描写二次叙述詞は意味的に主動詞とリンクされていると言える。すなわち、描写二次叙述詞が、付加詞構文で容認されるためには、その主動詞句が表す stage-level の描写と時間的にリンクされる状況・状態を表す叙述詞、すなわち、stage-level 叙述詞でなくてはならないことになる。(Rapoport (1991, 1993)参照。)

III. まとめ

付加詞構文が成立するためには、条件がある。その条件とは、描写二次叙述詞が主動詞とのリンク付けがなされることである。付加詞構文の主動詞(句)が表す事柄は、一時的・一空間的状況を表す叙述詞

(stage-level 叙述詞)で表される出来事(event)である。その状況と時間的にリンクされるためには、付加詞である描写二次叙述詞もまた、一時的・一空間的状況を描写しなければならない。すなわち、付加詞構文の叙述詞もまた、一時的・一空間的状況を表す stage-level の叙述詞でなくてはならない。このように、付加詞構文における描写二次叙述詞と主動詞とのリンク付けがなされて初めて、付加詞構文が成立可能となる。このことは、描写二次叙述詞と主動詞との間に特別な意味関係が成り立っていることを意味する。すなわち、(31a)(=(8a))は、(31b)(=(8b))のような意味を持つ。そして、この意味関係が、描写二次叙述詞が付加詞として成立する条件であると考えられる。

(31)a. John ate the meat_i raw_i.

b. There is an event that was the eating of the meat by John and the meat was raw in that event.

参考文献 (REFERENCES)

- Bach, Emmon. (1989) *Informal Lectures on Formal Semantics*, State University of New York, New York.
 Carlson, Gregory. (1980) *Reference to Kinds in English*, Garland, New York.
 Chierchia, Gennaro. (1995) "Stage-Level Predicates as Inherent Generics," *The Generic Book*, ed. by Gregory Carlson and Francis Jeffrey Pelletier, 176-223, The University of Chicago

- Press, Chicago.
- Dowty, David. (1972) "Temporally Restrictive Adjectives," *Syntax and Semantics 1*, 51-62, ed. by John Kimball, Taishukan Publishing Company, Tokyo.
- _____. (1979) *Word Meaning and Montague Grammar*, Reidel, Dordrecht.
- Fillmore, Charles j. (1970) "The Grammar of Hitting and Breaking" *Reading in English Transformational Grammar*, ed. by Roderick A. Jacobs, R and Peter Posenbaum, 120-33, Ginn and Company, MA.
- Jakenndoff, Roy. (1990) *Semantics Structure*, The MIT Press, MA.
- Kratzer, Angelika. (1995) "Stage-level and Individual-level Predicates," *The Generic Book*, ed. by Gregory Carlson and Francis Jeffry Pelletier, 125-175, University of Chicago Press, Chicago.
- Krifka, Manfred. (1989) "Nominal Reference, Temporal Constitution, and Quantification in Event Semantics," *Semantics Contextual Expression*, ed. by Renate Bartsh, Johan van Benthem, and Peter van Emde Boas, 75-116, Foris, Dordrecht.
- Milsark, Gray. (1977) "Toward an Explanation of Certain Peculiarities of the Existential Construction in English," *Linguistics Analysis Vol.3, No.1*, 1-30.
- Rapoport, Tova R. (1991) "Adjunct-Predicate Licensing and D-Structure," *Syntax and Semantics 25*, ed. by Susan Rothstein, 159-187, Academic Press, New York.
- _____. (1993) "Stage and Adjunct Predicates: Licensing and Structure in Secondary Predication Constructions," *KNOWLEDGE AND LANGUAGE*, eds. by Eric Reuland and Werner Abraham, 157-182, Kluwer Academic Publications, Boston.
- Stowell, Tim. (1978) "What Was There Before There Was There," *CLS 14*, 458-471, Chicago Linguistic Society, Chicago.
- Tenny, Carol. (1994) *Aspectual Roles and the Syntax-Semantics Interface*, Kluwer, Dordrecht.
- 池上嘉彦(編) (1996) 『英語の意味』 大修館書店。
- 今井邦彦 (1995) 『英語の使い方』 大修館書店。
- 水谷信子 (1985) 『日英比較 話しことばの文法』 くろしお出版。
- 吉川 洋 (2014) 「stage-level 叙述詞 individual-level 叙述詞について」 兵庫県立大学 環境人間学部研究報告 第 16 号、123-138。
- _____. 友繁義典 (2008) 『英語の意味とニュアンス』 大修館書店。
- 米山三郎・加賀信弘 (2001) 『語と意味と意味役割』 研究社出版。
- 鷲尾龍一・三原健一 (1997) 『ヴォイスとアスペクト』 研究社出版。

(平成 26 年 9 月 30 日受付)